

2024年度事業報告の件

はじめに

おかげさまで、千葉県労働者福祉協議会は、今年度結成60周年を迎えることが出来ました。これまでの皆様方のご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

ようやく新型コロナウイルス感染症が、落ち着きをみせ、社会はアフターコロナへと移行し、対面活動などが徐々に増えはじめコロナ禍以前のスタイルに戻っての活動となりました。

一方、社会情勢は、ロシアによるウクライナ侵攻が終息しない中、中東における軍事衝突も加わり、依然として政情不安な状況が続いています。また、グローバルのインフレ加速に伴う各国の金融政策の引き締めが続いている中、日本では極端な円安と原材料やエネルギー価格の高騰が相まって、賃上げ以上の物価高を招き、市民生活を直撃しています。このため、貧困と格差が更に拡大し、包摂的社会とはほど遠い地域社会の疲弊が一層進行しています。

こうした中、「今後の労働者福祉運動のあり方」の方針に基づき、この間の運動を検証しながら「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」を目指し、労働者福祉向上の運動、労働者自主福祉運動と協同組合運動の推進、組織の強化、さらに格差・貧困問題等の社会的課題等に対してNPO法人や市民団体と協働で取り組みを行ってきました。

労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進では、構成団体代表者会議や構成団体事業推進実務者会議を開催し、共通認識を醸成するとともに具体的取り組み等の意見交換を行い、「労働団体への運動方針化要請」や「労働者自主福祉運動シンポジウム」を開催しました。「労働者自主福祉運動シンポジウム」については、今年度も昨年同様に対面開催とZoomでのライブ配信を併用した、いわゆるハイブリッド方式を取り入れ、より多くの方々に参加してもらえるよう工夫をしながら取り組みを行いました。オンラインを活用した開催方法は、多くの方々に発信していく一つの有効的な手段と考えており、今後も様々な取り組みにおいて積極的に活用したいと考えています。一方、千葉県生協連と福祉団体との連携による「協同組合フェスティバル」は、今年から名称を「協同組合フェア」と変更し、開催場所や開催方法等について全面的にリニューアルをして新たなスタイルで再開をしました。開催場所が限られたスペースである事から、以前のような構成団体と共に直接的な参加をすることが難しいことから、今年度は見送ることとしましたが、今後は新たな連携方法を図りながら積極的に協力をしていきたいと思えます。

地区労福協との連携では、地区労福協代表者会議を3回開催し、各地区の取り組みや課題、さらに県労福協の取り組み等の共通認識の醸成をはかるとともに、労働者自主福祉運動の方針化や、奨学金制度改善の取り組み、福祉強化キャンペーン等、協力を頂き連携を図り取り組みました。

文化・体育活動では、第38回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会が開催され、25組90名の方に参加をいただきました。また、第19回千葉県勤労者ボウリング大会についても、8チーム32名の参加をいただきました。参加募集面や運営面で、構成団体、地区労福協の協力を得て取り組みました。

教育・宣伝活動では、「第9回労働者福祉セミナー」を(株)ラポール企画の大小原氏より今年度もオンラインを活用した方法にて、ラインケア講座「安心ルーティーン」というテーマにて開催をしました。オンラインを活用したセミナーについては、今回で6回目となり、回を重ねるごとに定着化してきました。グループワークにおいても活発な話し合いが行われ、参加者からは「非常に良かった」「参加しやすかった」等の意見を頂きました。

「労働組合のための税務研修会」については、労働組合等の会計税務に係る実務マニュアルが2021年度版から2024年度版へ改定されたことから、そのテキストに基づいて千葉県労福協の顧問税理士である峠税理士より研修を行っていただきました。

更には「中央労福協全国研究集会」が、今年は沖縄県那覇市にて開催されました。実開催と

併用してYouTubeでLIVE配信を行うハイブリッド方式にて開催されましたが、今年は千葉県労福協より2名を現地へ派遣し参加をいたしました。また、「東部ブロック福祉リーダー塾」については、例年通り、静岡県三島市にある東レ総合研修センターにて開催され、千葉からは、塾生として男女2名ずつ、合計4名の方に参加をいただきました。

「ちばライフサポートセンター事業」においては、昨年同様に労福協の事務局にて相談対応しながら今年度も活動を進めて参りました。相談業務は定着してきましたが、相変わらずリーダーの相談は多いものの、新規の相談が少ない状況となっています。この事については、今後の課題として捉えていきたいと考えています。

「野田市生活困窮者自立支援事業」については、従来通り野田パーソナルサポート共同企業体として、野田市パーソナルサポートセンターが「自立支援事業」「家計改善支援事業」、NPO法人 Earth as Mother 千葉が「就労準備事業及び被保護者就労準備事業」として業務分担をし、相談支援員は、相談者の気持ちにしっかりと寄り添いながら全力で相談業務に対応してきました。

その他、労働者福祉向上のための運動、貧困・格差問題等の社会的課題への取り組みなど、会員団体のご協力を得て取り組みを進めてきました。特に社会的課題においては、NPO法人・市民団体とも連携を強化し、取り組みを進めました。

この一年のご協力に感謝申し上げます、以下具体的な取り組みについて報告いたします。

I. 労働者福祉に関する事業

1. 理事会及び専門委員会の開催

(1) 理事会の開催

第82回理事会 2024年5月24日（金）理事10名 監事1名 事務局1名

- ①第11回定時総会関係について
- ②その他

第83回理事会 2024年6月18日（火）理事9名 監事3名 事務局1名

- ①各種会議の構成員及び開催日について
- ②年間主要活動について
- ③職員の2024年度賃金昇給及び一時金について
- ④職員の賃金昇給及び一時金の見直し時期の変更について
- ⑤「教育費負担軽減・奨学金制度改善に向けたアピール」に対する団体賛同・個人署名へのご協力のお願について

第84回理事会 2024年8月19日（月）理事12名 監事1名

- ①各種会議の開催日及び年間主要活動の具体化について
- ②2024年度「労働者自主福祉運動シンポジウム」の実施について
- ③「2024全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて
- ④千葉県協同組合フェアへの協力および参加等について
- ⑤千葉県への政策制度要請について
- ⑥60周年記念行事について

第85回理事会 2024年10月17日（木）理事9名 監事3名

- ①各種会議等の開催日について
- ②千葉県への政策制度要請について
- ③2024年度「労働組合のための税務研修会」の開催について
- ④第19回千葉県勤労者ボウリング大会について
- ⑤JPA難病・長期慢性疾患・小児慢性特定疾病対策の総合的な推進を求める国への請願署名の取り組みについて
- ⑥関連団体行事の後援等について
- ⑦給与規程の見直し(案)について

⑧野田地区労福協における2023年度定額助成金支払い漏れに対する訴求措置対応について

⑨千葉県医療審議会委員の派遣について

第86回理事会 2024年12月17日（火）理事12名 監事3名

①各種会議等の開催日について

②第12回定時総会の日時と会場について

③役員推薦委員会の設置について

④千葉県勤労者チャリティゴルフ大会のチャリティ金の寄贈先について(案)

⑤60周年記念祝賀会について

第87回理事会 2025年 2月21日（金）理事11名 監事2名 事務局1名

①各種会議等の開催日について

②第12回定時総会関係について

③千葉県からの補助金に関わる補正予算申請(請求額の変更)について

④野田市PSC職員への期末手当の支給について

⑤千葉県労福協パート職員への期末手当の支給について

⑥「教育フォーラムちば2025」開催日程および後援について

⑦第96回千葉県中央メーデーについて

⑧コープみらい社会活動財団の奨学金給付事業について

第88回理事会 2025年3月25日（火）理事10名 監事2名 オブザーバー2名 事務局1名

①理事および監事の退任について

②第12回定時総会関係について

③2025年度役員報酬等について

④職員の2025年度賃金昇給および一時金について

⑤野田市生活困窮者自立支援事業への対応について

⑥野田市PSCの実施体制と職員の継続雇用について

⑦パート職員の継続雇用について

⑧第96回千葉県中央メーデーの対応について

⑨東部ブロック協議会「第16期福祉リーダー塾」について

⑩中央労福協「2025年度全国研究集会in TOYAMA」への参加について

⑪千葉県要請への回答について

第89回理事会 2025年4月18日（金）理事10名 監事2名 オブザーバー1名 事務局1名

①第12回定時総会関係について

②2025年度年間活動計画について

③連合千葉「2025年政策学習会」の対応について

④「第27回連合千葉平和集会」の対応について

(2) 三役会の開催

第1回三役会 2024年6月4日（火）

I. 理事会協議事項

① 各種会議の構成員及び開催日について

～ ②年間主要活動について

II. 三役協議事項

第2回三役会 2024年8月2日（金）

I. 理事会協議事項

① 各種会議の開催日及び年間主要活動の具体化について

～ ⑤千葉県への政策制度要請について

II. 三役協議事項

第3回三役会 2024年10月1日(火)

I. 理事会協議事項

- ① 各種会議等の開催日について
- ～ ⑥ 関連団体行事の後援等について

II. 三役協議事項

第4回三役会 2024年12月9日(月)

I. 理事会協議事項

- ① 各種会議等の開催日について
- ～ ③ 役員推薦委員会の設置について

II. 三役協議事項

第5回三役会 2025年2月6日(木)

I. 理事会協議事項

- ① 各種会議等の開催日について
- ～ ③ 第96回千葉県中央メーデーについて

II. 三役協議事項

第6回三役会 2025年3月6日(木)

I. 理事会協議事項

- ① 理事および監事の退任について
- ～ ⑩ 千葉県要請書の回答について

II. 三役協議事項

第7回三役会 2025年4月8日(火)

I. 理事会協議事項

- ① 第12回定時総会関係について
- ～ ③ その他

II. 三役協議事項

2. 労働者福祉推進に関する事業

(1) 中央・東部ブロック・地方労福協との連携

中央労福協、東部ブロック協議会に参加し、各地方労福協と一緒に活動を推進するとともに、各種会議、研究集会、連絡会議に積極的に参加し、県段階の運動に活かす活動を展開してきました。

【中央労福協】

◎2024年度全国研究集会in OKINAWA 2024年6月7日(金)

沖縄県那覇市 那覇文化芸術劇場なはーと大劇場 YouTube Live配信併用

◎2024年度地方労福協事務担当者研修会 2024年7月4日(木) 参議院議員会館

◎2024年度事業団体・地方労福協合同会議 2024年7月11日(木) 日本教育会館

◎第2回地方労福協会議 2024年9月19日(木) Web開催

◎第13回LSC実務者・相談員研修会 2024年10月11日(金)

連合会館201会議室およびWeb併用 Hybrid開催

◎2024～25年度 第3回生活・就労支援連絡会議 2024年10月25日(金) Web開催

◎第7回シンポジウム「女性のひろば」 2024年10月30日(水) 連合会館

◎第11回加盟団体代表者会議 2024年11月29日(金) Web開催

◎2024年度生活困窮者自立支援事業に携わる相談員・支援員オンライン交流会

2024年12月12日(木) Web開催

◎第3回地方労福協会議 2025年2月28日(金) ANAクラウンプラザホテル金沢

【労福協東部ブロック協議会】

- ◎第243回幹事会・事業団体責任者会議 2024年7月18日(木) 静岡県静岡市
(公財)静岡県労働者福祉基金協会(ロッキーセンター)
- ◎ライフポート事業経験交流会 2024年9月5日(木) 茨城県水戸市 水戸京成ホテル
- ◎第244回幹事会・代表者会議・OB会 2024年10月8日(火) 山梨県富士吉田市
ハイランドリゾートホテル
- ◎第245回幹事会 2024年12月4日(水) 神奈川県横浜市 ワークピア横浜
- ◎第59回定期総会・記念講演
2024年12月4日(水) 神奈川県横浜市 ワークピア横浜
 - ① 第59回定期総会
 - ② 記念講演「(公社)フードバンクかながわ」の現状と課題
講師 (公社)フードバンクかながわ 事務局長 藤田 誠 氏
2024年12月5日(木)～6日(金) 神奈川県内
 - ③ 役職員研修会
- ◎第246回幹事会 2025年3月17日(月) 新潟県新潟市 新潟東映ホテル

《東部ブロック福祉リーダー塾》

- ◎第15期 2024年6月11日(火)～12日(水) 静岡県三島市 東レ総合研修センター

(2) 地区労福協の強化・育成・支援に関する事業

<第1回地区労福協代表者会議>

2024年7月26日(月) こくみん共済coop千葉推進本部

<活動報告>

1. 5月～6月の活動報告並びに各種会議報告

<議 題>

I. 千葉県労福協組織運営並びに年間主要活動計画

1. 諸会議構成

2. 年間主要活動について

① 広報誌「しあわせ」発行 ② 労働者福祉セミナー ③ 政策制度要請 ④ 第38回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会 ⑤ 全国福祉強化キャンペーン ⑥ 労働者自主福祉運動シンポジウム ⑦ 税務レポート研修会 ⑧ 第19回千葉県勤労者ボウリング大会 ⑨ 千葉県労福協 結成60周年記念レブション

3. 地区労福協と千葉県労福協並びに構成団体との連携

4. 労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進と事業団体の利用促進

5. 「2024全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて

6. その他 ① 連絡先一覧について

II. 地区労福協活動報告

III. 意見交換

IV. 2024年度地区労福協運営助成金について

V. 連絡事項

1. 講演会・セミナー等の費用補助制度の活用について

2. その他

<第2回地区労福協代表者会議> 2024年10月31日(木) web開催

I. 千葉県労福協活動報告

1. 諸会議・諸活動等

2. 中央労福協・東部ブロック協議会関係

3. NPO等加盟団体関係
- II. 協力要請事項
 1. 「2024全国福祉強化キャンペーン」の取り組みについて
 2. 2024年度「労働者自主福祉運動シンポジウム」の実施について
 3. 2024年度「労働組合のための税務研修会」の開催について
 4. 「第19回千葉県勤労者ボウリング大会」の開催について
 5. 千葉県労福協 結成60周年記念レセプションの開催について
 6. その他
- III. 地区労福協活動報告
- IV. 連絡事項
 1. 2024年度地区労福協運営助成金について(再確認事項)
 2. 講演会・セミナー等の費用補助制度の活用について(再確認事項)
 3. 今後の主な予定
- V. その他

<第3回地区労福協代表者会議> 2025年2月18日(火) web開催

- I. 千葉県労福協報告
 1. 諸会議・諸活動等
 2. 中央労福協・東部ブロック協議会関係
 3. NPO等加盟団体関係
- II. 協力要請事項
 1. 千葉県労福協第12回定時総会への対応について(案)
 2. 第16期労福協東部ブロック福祉リーダー塾参加について
 3. その他
- III. 地区労福協活動報告
- IV. 意見交換事項
 1. 千葉県労福協2025年度事業計画(案)策定に対する意見・要望について
 2. 労働者自主福祉運動・事業の推進について
 3. 次年度の地区労福協代表者会議について
 4. その他
 - (1)「地区労福協代表者連絡先組織一覧」について
- V. 連絡事項

地区労福協代表者会議は、年間計画通り年3回の開催をすることが出来ました。代表者会議において「全国福祉強化キャンペーン」「千葉県労福協の各種活動」への協力要請や千葉県労福協と地区労福協との意見交換等を行ってきました。

○各地区労福協の主な活動報告は、【資料1】参照。

(3) 構成団体との連携による労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進

① 構成団体代表者会議 (中止)

第1回 2024年8月2日(金)

② 構成団体事業推進実務者会議

第1回 2024年7月16日(火) Web開催

出席者 中央労金千葉県本部：菅生都県統括部長

こくみん共済 coop千葉推進本部：杉浦事務局長

千葉県生協連：佐久間事務局長
連合千葉：中島事務局長
労福協：宮崎常務理事、岩上事務局長

- 内 容
1. 労働者自主福祉運動の推進取組報告（経過報告）
 2. 課題と今後の取り組みについて（次年度事業計画への反映）
 3. 意見交換・構成団体からの意見要望
 4. その他

③労働者自主福祉運動シンポジウム

日時・場所 2024年11月16日（土）13:00～15:50 オークラ千葉ホテル(千葉市)

参加者 46名(オンラインでの参加者9名含む)

主催 千葉県労福協

共催 連合千葉、中央労金労組千葉統括支部

全労済労組関東支部千葉分会

中央労働金庫千葉県本部、こくみん共済 coop千葉推進本部

内 容 講演「競争か連帯か～労働者自主福祉運動の理念と歴史」

労働組合と協同組合は車の両輪で始まった

講師：中央労福協講師団講師 高橋 均 氏

事業団体からの提起

「<中央ろうきん>の生活支援取組について」

中央労働金庫千葉支店 渉外担当 田中 颯 氏

事業団体からの提起

「もしもセミナー：防災・減災篇」～大地震から命と暮らしを守る～

こくみん共済 coop千葉推進本部

防災士 久森 一広 氏

④千葉県協同組合フェア

日時・場所 2024年12月1日（日）13:00～ JR千葉駅改札入口コンコース内

⑤協同組合の社会的認知度の向上、理解促進の取り組み

- ・広報誌（しあわせ）による事業・活動紹介
- ・中央労福協や労金、こくみん共済 coop作成教材・DVDの紹介及び貸出

⑥構成団体の取り組み

構成団体の取り組み報告については、「Ⅲ. その他事業」の後に記載しましたので
ご参照願います。

（４）貧困・格差問題及び福祉強化の取り組み

2024全国福祉強化キャンペーン

実施期間 2024年10月～11月

全国共通テーマ

- ・共助の輪を広げるとともに、地域のつながりで生活・就労支援に取り組もう！
- ・高等教育費の負担軽減に向け、地域に取り組みを広げよう！

I 重点活動

1. 全国統一行動（ミニマム運動課題）

- （１）「奨学金制度改善・教育費負担軽減」運動のさらなる展開に向けた取り組み
- （２）ろうきん・こくみん共済coop等と連携した取り組み

(3) 自治体要請行動

2. チャレンジ行動

- (1) 協同組合に関する学習啓発および連携強化
- (2) 地域活動の実践
- (3) 地球環境問題の取り組み
- (4) 時代に対応したICTやソーシャルメディアの活用
- (5) 認知度向上の取り組み

II 利用促進・共助拡大の取り組み

1. 労働団体への要請
2. 加盟事業団体との連携

III 中央労福協と連携した取り組み

1. 加盟労働団体トップ訪問との連携
2. 中央労福協主催の研修会・web学習会への参加
3. 研修用教材の活用

3. 労働者福祉に係る調査研究に関する事業

(1) 社会保険制度の調査研究

昨年まで現行社会保険制度の要点を作成して、県内の労働組合等へ配布してきましたが、郵送料等の大幅な値上げ等から、今年度より配布先について大幅に見直しをした上で、県内の労働組合等へ配布させていただき制度概要の周知を図りました。

4. スポーツ・文化活動に関する事業

多くの団体から協賛・後援を頂きながら下記の各種活動を開催しました。

(1) 第38回千葉県勤労者チャリティゴルフ大会

日時・場所 2024年10月28日(月) 真名カントリークラブ

参加者 25組90名

成績 個人の部(新ペリア方式)
優勝:石井 蒼汰氏[94]
準優勝:岩見 道雄氏[81]
3位:新井 政義氏[102]
ベストグロ賞:山内 剛氏[79]

団体の部

優勝:小川チーム
準優勝:木更津市役所C
3位:木更津市役所A

ニアピン:山内 剛氏(つつじ4)
岩見 道雄氏(つつじ6)、
三枝 竜太氏(くすのき4)
岩瀬 智貴氏(くすのき7)
戸塚 健太郎氏(こぶし3)
山崎 光氏(こぶし8)
ドラコン:山内 剛氏(つつじ8)
石井 蒼汰氏(くすのき8)

山口 諒氏（こぶし4）

今回も労働組合・福祉団体等から多くの賞品をご提供いただき、盛況裡に開催することが出来ました。また参加した皆様より179,000円のチャリティ金へのご協力を頂きました。心より感謝を申し上げます。

尚、この寄贈先について理事会にて協議した結果、今年は、日本赤十字「令和6年度9月能登半島大雨災害義援金」へ全額寄贈させて頂きました。

（2）第19回千葉県勤労者ボウリング大会

日時・場所 2025年2月1日（土）VEGAアサヒボウリングセンター

参加者 8チーム32名（地区代表、構成団体）

成績 個人の部（2ゲームトータル）

優勝：露崎 瑠氏 [395]

準優勝：内藤 嘉宜氏 [335]

3位：近藤 拓海氏 [328]

団体の部（2ゲームトータル）

優勝：茂原市職員組合 [1269]

露崎 瑠氏・山田 穂波氏・鶴岡 誉之氏・高井 勇喜氏

準優勝：千葉市地区労福協（JFE労組） [1233]

内藤 嘉宜氏・種村 佳亮氏・近藤 拓海氏・神 仁氏

3位：ろうきん友の会市川支部 [1105]

塩田 幸子氏・川口 英次氏・戸佐 薫氏・唐笠 正子氏

5. 教育・宣伝に関する事業

（1）労福協広報誌「しあわせ」3回発行（537号・538号・539号）

今年から、郵送料等の大幅な値上げにより、配布先や配布部数の大幅な見直しを図りました。また、書面についてもカラー印刷を基本として、より見やすくなるよう改善を図りました。内容については、今までと同様に、千葉県労福協の活動、構成団体の「連合千葉」「中央労金千葉県本部」「こくみん共済coop千葉推進本部」「千葉県生協連」の事業・活動報告や紹介、各地区労福協の総会や活動の掲載、中央労福協、東部ブロック協議会の活動報告、さらにNPO法人等の連携団体の活動紹介についても掲載してきました。

〇1年間の「しあわせ」記事内容については【資料2】参照。

（2）インターネット・ホームページ等の充実・活用

中央労福協との連携により中央のホームページとリンクするとともに、千葉県労福協の定時総会議案や活動はじめ、広報誌「しあわせ」も掲載し、誰でも閲覧出来るようにしています。また、昨年度よりホームページを全面リニューアルし、より見やすい画面へ一新致しました。併せて一昨年度よりFacebookを開始し、ホームページとリンクさせ、アクセスしやすいように改善を図りました。

（3）第9回 労働者福祉セミナー

オンラインを活用したセミナーを始めて今年で4年目を迎え、ようやくこの方法も定着してきました。今年は23名の方にご参加いただき、ラインケア研修「安心ルーティーン」というテーマで、毎年お世話になっている日本ゲートキーパー協会の大原氏に約2時間にわたり講演を行って頂きました。セミナーの中で実施したグループワ

一夕においては、各参加者の皆さんが真剣に、しかも楽しみながら討議をしていた姿が非常に印象的でした。参加者からは「大変楽しく、しかも勉強になった」「初めての参加だったが、オンラインでのセミナーであったことから気軽に参加できて非常に良かった」「セミナーに参加して、様々な気づきがあった」等の感想を頂きました。

今後も引き続き、オンラインを活用した方法について積極的に取り入れていきたいと思います。

(4) 2024年度労働組合のための税務研修会

日時・場所 2024年12月12日（月）14:00～16:30 こくみん共済coop千葉推進本部会館

参加者 30名

講師 峠 修治 税理士

内容 ①労働組合の会計・税務について

②その他

6. 行政・自治体等との連携に関する事業

(1) 審議会・委員会への派遣

千葉県の各種審議会・委員会へ委員を派遣し、県政に勤労者の意見・要望を反映させました。また、千葉県社会福祉協議会等の委員会にも委員を派遣してきました。

千葉県医療審議会委員	永 富 博 之
健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員	永 富 博 之
千葉県消費者行政審議会 委員	尼 崎 英 之
千葉県多重債務対策本部 構成メンバー	菅 生 利 治 宮 崎 弘 志
千葉県自殺対策連絡会議 構成員	宮 崎 弘 志
千葉県公衆浴場料金等協議会 委員	永 富 博 之
(一社)千葉県地方自治研究センター 監事	宮 崎 弘 志
千葉県ボランティア・市民活動センター 運営委員	永 富 博 之
千葉県共同募金会配分委員会 委員	永 富 博 之
社会保険診療報酬支払基金千葉審査運営協議会 委員	岩 上 美 佐 子
社会福祉法人 千葉いのちの電話 評議員	宮 崎 弘 志

(2) 対県要請について

今年度の対県要請は、2024年11月18日（月）県庁内で、千葉県労福協からは、永富会長、林田副会長、宮崎常務理事、千葉県からは、雇用労働課 小高課長、新城副課長、篠原班長、東主事が出席して、永富会長より小高課長に「令和7年度労働者の生活安定に関する要請書」を手渡し、その後、永富会長の総括挨拶と宮崎常務理事より要請内容のポイント説明がされ、意見交換を行いました。

「令和7年度労働者の生活安定に関する要請書」に対する回答は、2025年3月31日（月）に出されましたが、理事会で回答の扱いを確認し、それぞれの団体に精査することとしました。

○「令和7年度労働者の生活安定に関する要請書」の要請内容及び回答は【資料3】参照。

II. 生活支援に関する事業

1. 暮らし何でも相談事業「ちばライフサポートセンター」事業について

(1) 「ちばライフサポートセンター」事業について、2022年10月より、財政等の問題から、労福協の事務局にて週1回水曜日を相談日(相談時間10時～15時)とし、電話相談のみで対応しています。この新しい形での相談業務がスタートして2年が経過をし、ようやく相談活動が定着してきたところです。しかしながら、昨年も報告をさせていただきましたが、相談者の中には、「一人暮らしで寂しいため、話し相手になってもらいたい」という理由で、一日何回も電話をかけてくるというケースや、セクハラ紛いの電話をしてくるケースなどもあり、本来の趣旨から逸脱している内容も少なくないことから、対応に苦慮しています。また、この相談事業をより多くの人たちに活用して頂くために、情宣活動に注力していく事を目指して活動してきましたが、なかなか十分な情宣活動は出来ませんでした。

そうした中、今年も運営委員会にて特徴的な相談の事例報告をし、対応策や情宣方法について協議をしながら方向性を確認し、年間の活動を進めて参りました。

次年度以降も引き続き様々な情宣方法等を考えながら活動し、より多くの人たちに利用して貰えるよう努力していきたいと思えます。

(2) ちばライフサポートセンター運営委員会

ちばライフサポートセンター運営委員会にて、相談等の内容を報告し、様々な問題点や活動についてしっかりと総括をするとともに、次年度の活動内容について協議をしてきました。

◎第1回ちばライフサポートセンター運営委員会

2024年7月16日(木) web会議

出席者 中央労金千葉県本部：菅生都県統括部長
こくみん共済 coop千葉推進本部：杉浦事務局長
連合千葉：中島事務局長
労福協：宮崎常務理事、岩上事務局長

内 容 I. 今年度のちばライフサポートセンター事業について
(1) 現行実施している相談体制について
(2) 現在までの相談状況について
(3) 情宣活動について
意見交換
II. その他

○1年間の実施状況については【資料4】のとおりです。

(3) 野田市パーソナルサポートセンター事業の取り組み支援

千葉県労福協は、中央労福協方針を受け止め、野田市パーソナル・サポート・サービス・モデル事業の連絡会に参加し、その後、2014年7月から野田市生活困窮者自立促進支援モデル事業、2015年度の生活困窮者支援制度本格実施以降は、毎年度、生活困窮者自立支援事業を受託し取り組んできました。

2019年度に、法改正による野田市の意向を踏まえ、千葉県労福協がNPO法人 Earth as Mother 千葉とともに野田パーソナルサポート共同企業体を設立し、自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業の三事業を一括受託し、その内、千葉県労福協は、自立相談支援事業と、家計改善支援事業の2事業を受け持つ、共同企業体間の更なる連携と円滑な運営・協力体制を構築し、事業を進めてきました。

更には、2021年4月より現在までの事業内容をベースとして、新たに国が進める改正福祉法に基づく重層的支援体制の構築を図るため、「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」を開始する事となり、2021年度からは「野田市生活困窮者自立支援事業及び被保護者就労準備事業」と「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」について、業務分担としてはNPO法人Earth as Mother 千葉に担ってもらう形で受託することとなりました。

とりわけ、「重層的支援体制整備事業への移行準備事業」の業務を担うNPO法人Earth as Mother 千葉を中心に共同企業体である野田市パーソナルサポートセンター、そして野田市と情報共有しながら本格運用を目指し準備を進めてきましたが、様々な要因から最終的に「重層的支援体制事業への移行準備事業」については、野田パーソナルサポート共同企業体としてではなく、NPO法人Earth as Mother 千葉が単独で受託をする事となりました。したがって今年度は、以下の記載した業務分担で活動を行ってきました。

令和6年度 野田市との委託契約

構成団体	業務分担
野田パーソナルサポート共同企業体	(一社) 千葉県労働者福祉協議会 ・ 自立相談支援事業 ・ 家計改善支援事業 NPO 法人 Earth as Mother 千葉 ・ 就労準備支援事業及び被保護者就労準備事業

○1年間の実施状況については、【資料5】のとおりです。

2. NPO法人、ボランティア等に関する取り組み

(1) NPO組織等との連帯・連携の取り組み

① NPO法人「地域創造ネットワークちば」

団塊シニアの地域活動やユニバーサル農業等の「相談事業」、シニア世代の地域づくり活動参加促進支援や講師派遣等の「研修・講座事業」、「情報収集・提供事業」、「連携（ネットワーク）事業」等に取り組んできました。千葉県労福協は、会員団体として理事に宮崎常務理事を派遣し、各種活動に参画し取り組んできました。

1) 第18回総会（2024年4月23日 連合千葉 第2会議室）

2) 理事会：4回開催（7/30、10/22、1/21、4/22）

3) ちばユニバーサル農業フェスタ2024in四街道

（2024年11月16日（土）四街道市文化センター前広場及びホワイエ・展示ホール）
 農業者、福祉団体等33団体。来場者およそ1,100人

4) つながる経済フォーラムちば

（2024年7月25日 千葉市美術館ワークショップルーム）

② 「協同労働の協同組合ネットワークちば」

「協同労働の協同組合」法制化運動を促進し、協同労働の協同組合への理解・賛同を広げ、発展させることを目指し、学習会や交流視察等に取り組んできました。

そんな中、2020年12月4日（金）第203回臨時国会において、与野党・全会派の賛同を持って、念願であった「労働者協同組合法」が成立しました。これを受けて、2021年度から2022年度においては、より多くの人に対して「労働者協同組合法」を理解してもらう活動を実施してきました。そして2022年10月1日より法施行が開始となる事を受け、千葉県においても説明会等が開催されました。

とりわけ、千葉県においては「ワーカーズコープちば」が、この法律に基づき法人移行手続きを行い、特別法人として生まれ変わりました。法施行が開始した以降各地で労働者協同組合の設立する動きがあり、令和5年11月6日時点で、1都1道21県で計61法人が設立されました。しかしながら、千葉県においては、「ワーカーズコープちば」が移行手続きをして以降は、わずか1団体のみが設立をしている状況です。

そのことから、引き続き様々な方法で周知活動を行いながら、労福協としっかりと連携を図りながら協働労働の協同ネットワークちばで出来ることを模索しながら活動していくこととします。

1) 運営委員会：3回開催（運営委員 宮崎常務理事）

③ 「消費者行政充実ネットちば」

2019年度には、消費者に最も身近にある、地方自治体における消費者行政の充実に向けて①全自治体での消費者生活相談窓口の設置や相談員の処遇改善、②消費者が頼れる消費者行政の確立、消費者教育の推進に向け取り組むとともに、「リコールキャンペーン」を実施する等、積極的に取り組みを展開してきましたが、新型コロナウイルス感染症以降、具体的な活動が出来ていない状況です。

④ 「フードバンクちば」

「フードバンクちば」は、ワーカーズコープちばが運営主体となり2012年5月から活動をスタートして12年目の活動に取り組んできました。

2023年6月には、千葉県知事がフードバンクちばに視察に訪れ、千葉県からの更なる支援について検討していく発言がされました。このように、フードバンクの重要性についての認識が高まる中、千葉県労福協は、今年度においても協力団体として取り組みを支援するとともに、各種会議等においてフードドライブの取り組みの周知と共に、食品の回収の呼びかけを行いながら、一方では野田市生活困窮者自立支援事業での生活困窮者支援において「フードバンクちば」から支援を頂く等、双方連携のもとに取り組んできました。

⑤ 社会福祉法人「千葉いのちの電話」

「千葉いのちの電話」は、1989年10月1日の開局から、今年35周年を迎えました。この間、電話相談、フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」、対面相談、自死遺族支援事業、インターネット相談等を行ってきました。とりわけここ数年インターネットやSNSが普及してきた今、相談窓口も形を変えつつあります。それに対応しつつ、2022年から茨城いのちの電話でSNS相談プロジェクトを立ち上げ、千葉いのちの電話においても2024年10月よりSNS相談(LINE相談)のトライアル運用を開始しました。千葉県内の昨年度の自殺者数は975人と依然として深刻な状況が続いています。相談件数も18,481件と非常に多くの方からの相談がありました。このことから引き続きの対策が急務であり「千葉いのちの電話」の事業を重要な取り組みと位置づけ、千葉県労福協は、評議員会に参加するとともに、理事会等で現状等を報告してきました。

1) 評議員会：年3回開催（評議員：宮崎常務理事）

⑥ 「貧困問題を考える懇談会」（千葉県弁護士会主催）

「貧困問題を考える懇談会」は、生活保護問題、奨学金問題等の貧困問題に対する学習や意見交換、各団体の取り組み報告等を行ってきました。一昨年からコロナ禍の状況を鑑み、実開催と併行してオンラインを利用した、いわゆるハイブリット方式も

取り入れながら懇談会の開催がされました。千葉県労福協は、労働者の雇用問題やちばライフサポートセンターでの取り組み、さらに全国で取り組んでいる奨学金制度の改善等を中心に懇談会に臨んできました。貧困問題の実態や支援状況、課題等の共通認識がはかれ、多くの団体等とのネットワークが広がってきています。

- 1) 懇談会：年4回程度開催
- 2) その他、懇談会参加の弁護士等との連携した取り組み

⑦ NPO法人「消費者市民サポートちば」

2016年11月に適格消費者団体を目指し設立された「NPO法人消費者市民サポートちば」には、千葉県労福協から役員（監事）を派遣し、一緒になって取り組みを進めてきました。

2019年6月に千葉県内初の「適格消費者団体」としての認定を受け、不当な事業者に対し「差止請求」訴訟ができるようになり、より活動の幅が拡張しました。

- 1) 第8回通常総会 2024年6月9日（日）千葉県弁護士会館
- 2) 理事会：2ヶ月に1回開催（6/9～5/8 WEB開催および実開催）
- 3) 自治体等、各団体からの受託事業の実施

III. その他事業

1. 構成団体との連携による労働者自主福祉運動・協同組合運動の推進

<構成団体の取り組み>

<連合千葉>

【2025春季生活闘争の取り組み】

2025春季生活闘争は「みんなであつろう！賃上げがあたりまえの社会 みんなであつろう！働く仲間の労働組合」をスローガンに、「働くことを軸とする安心社会の実現」に向け、慢性デフレに終止符を打ち、動き始めた賃金、経済、物価を安定した巡航軌道に乗せる年として、連合はすべての働く人の持続的な生活向上をはかり、新たなステージを定着させることをめざしました。そのために「賃金も物価も上がらない」という社会的規範ノルムを変え、実質賃金が継続的に上昇による個人消費を拡大による、賃金と物価の好循環を実現する。

そのカギの一つが、賃上げの広がりや格差是正であり、もう一つが、適切な価格転嫁・適正取引の徹底、製品・サービスと労働の価値を高め認め合う取引慣行の醸成である。

人口減少のもとで社会や産業・企業を維持・発展させていくためには、中長期を見据えた「人への投資」が不可欠である。今こそ、政労使が社会的責任を果たすべく大きな問題意識を共有し、多くの人が生活向上を実感し、将来への希望と安心を創っていく好機である。

連合は、働く仲間の力を結集し社会的うねりをつくりだすべく、先頭に立って運動をけん引する運動を展開してきました。

3月3日時点で、要求提出済み組合は3,577組合、うち月例賃金改善（定昇維持含む）を要求した組合は3,048組合で、平均賃金方式で賃金引き上げを要求した2,939組合（同163組合減）の平均（規模計）は19,244円・6.09%（加重平均）で、昨年を上回った（同1,638円増・0.24ポイント増）。300人未満の中小組合（1,891組合）は17,667円・6.57%（同）で、昨年（2,208円増・0.60ポイント増）を上回るとともに、規模計の上げ幅をも上回った。

要求が6%を上回ったのは、規模計（6.09%）が1993闘争（7.15%）以来32年ぶり、中小組合（6.57%）が1995闘争（6.28%）以来30年ぶりである（※1993闘争、1995闘争のデータは最終回答集計時点）。規模計のうち、賃上げ分が明確に分かる2,454組合の賃上げ分の要求は

14,283円・4.51%（同1,391円増・0.21ポイント増）、中小组合では13,585円・5.01%（同2,130円増・0.63ポイント増）となっている。

有期・短時間・契約等労働者の賃上げ要求額は、組合員数加重平均で時給81.35円（同5.96円増）、月15,802円（同1,022円増）と、昨年同時期比増である。雇用形態間格差是正への取り組みの結果と受け止める。

多くの組合が2月末までに要求書を提出し、交渉が本格化している。これまでの交渉で経営側は、経済の好循環に向けて重要な局面にあるとの認識を示すとともに、物価上昇に対する対応が社会的に求められていること、産業・企業の持続的な発展には「人への投資」を継続していくことが重要であることなどについては、総じて理解を示している。先行する組合では、要求に沿った回答を引き出したところもある。

賃上げ要求の前段あるいは並行する形で労務費を含めた適切な価格転嫁を求める動きも昨年より強まっている。経営側は、一定の理解を示しているところがある一方、産業・企業のおかれた競争環境などによる違いも大きい。とりわけ、中小企業では賃上げ原資を継続的に確保するためには価格転嫁や生産性の向上により企業業績の改善が不可欠との意見も強い。

連合・構成組織・加盟組合・地方連合会は一層の連携を強め、賃上げの世論醸成に向けた積極的な情報発信などに取り組む。

構成組織は、すべての加盟組合の要求状況を把握し、要求作りなど必要な支援を行う。交渉中の労働組合は、要求趣旨に沿って最大限の回答を引き出すべく、以下の点を強く主張し、粘り強く交渉を展開していく。

連合千葉は、構成組織・地域協議会・関係諸団体との団結により、この後続く、最低賃金等、社会全体に波及し定着・深化させる取り組みにつなげていく考えです。

【組織強化に向けた取り組み】

連合は、すべての働く者、生活者の立場で、働くということに最大の価値を見出し、社会全体へうねりを生み出す運動として、世論喚起や行政等への政策制度要求・実現に取り組んでいます。

連合千葉は、世論喚起・社会的波及を目的に時宜のテーマに応じて街宣行動やメーデー等の諸行事を展開しています。

また、第96回千葉県中央メーデーを4月26日（土）に千葉ポートパーク円形広場において、一般の組合員およびそのご家族等のコロナ以前と同じ約7,000人規模で開催することができました。この他、5つの地域協議会主催による地域メーデーも開催され、働く仲間の結集するメーデーの持つ発信力を活かし、

千葉県全体へ 2025メーデースローガン

「次代につなぐ 平和の願い！みんなでつくろう 支え合う安心社会と確かな^{あした}未来を！」
を伝え確認しました。

組合員一人ひとりから共感を得られる運動を推進し、社会から「信頼される労働者の代表的組織」として、その発信力を社会全体に波及させるためにどうあるべきか、連合千葉・構成組織・地域協議会、さらには、福祉団体等との連携のうえ、検討を進めてまいります。

【福祉団体との連携】

連合千葉は、千葉県労働者福祉協議会をはじめとした関係諸団体と連携をはかり労働者自主福祉運動の推進に取り組んできました。具体的には、各種事業への参画が挙げられますが、労働運動を支える人材育成は急務であるとの認識のもと、千葉県労働者福祉協議会が主催する「労働者自主福祉運動シンポジウム」への参画等、今の労働運動の礎である歴史や運動の理念を学ぶ機会として連携し取り組みました。

連合千葉が掲げる「働くことを軸とする安心社会-まもる・つなぐ・創り出す-」は、誰一人

取り残されることの無い社会をつくり上げることでもあり、それには福祉団体とのさらなる連携が求められます。

<中央労金千葉県本部>

2024年度は『第7期中期経営計画：2022－2024年度（以下、中計）』の最終年度として、中計の基本的な考え方を堅持しつつ、内外環境の変化や課題を踏まえた補強策を講じ、その成果を第8期中期経営計画に引き継ぐため「2024年度事業計画」に基づき各種取り組みを進めて参りました。

中計の3つの主要課題（「職域を中心とした基盤拡大」「デジタル化の推進」「会員・組合員・地域の期待に応える経営基盤の構築」）について、以下ご報告いたします。

〔主要課題1〕 職域を中心とした基盤拡大

【主な成果】

- 本部・都県本部・営業店の各層で「会員基盤の拡大」として、ナショナルセンター・産別の地域組織と連携して、傘下の未加入組織に加入要請などを行った結果、中計3ヵ年で新たに333会員が加入しました。
- 組合員に対し、資産形成支援や健全なローン利用の提案、金融リテラシー向上を目的としたセミナー開催など、ライブプラン支援の取り組みを積極的に展開しました。会員・推進機構と連携のうえ、職域でのセミナー・相談会（オンラインを含む）を積極的に開催した結果、セミナーの開催回数・参加者数は、中計3ヵ年で着実に増加しました。また、各年度ともにフレッシューズキャンペーンを実施し、給与振込、財形貯蓄・エース預金などメイン化の取り組みを推進しました。

【主な課題】

- 職域での活動量は増加しているものの、職域での新規利用者数は各年度ともにめざす水準（各年度 50,000 人）の到達が厳しい見通しです。
また、職域での利用者数（総数）は中計3ヵ年で41,205人減少して1,479,936人、間接構成員に占める利用者の割合は35.3%となりました。
- 「預金残高増加」「融資残高増加」は、『第7期中期経営計画』の計数目標の達成が厳しい見通しとなりました。

〔主要課題2〕 デジタル化の推進

【主な成果】

- 団体会員ポータルサイト「R-Portal」のサービスを開始し、会員への情報提供等、Webを通じた接点強化が進みました。
- 「R-NEXT（有担保版）」を活用し、利便性の向上および業務効率化を促進しました。
- 顧客ニーズに基づく情報発信手段の多様化を図るため、「Instagram」および「YouTube」の運用を開始しました。
- 小口資金送金サービスである「ことら送金」サービスの取扱いを開始しました。
- 「団体版インターネットバンキング」「個人インターネットバンキング」等の利用促進により、会員・金庫双方の事務負荷を軽減しました。

【主要課題3】 会員・組合員・地域の期待に応える経営基盤の構築

【主な成果】

- 男性職員の育児休業の取得率は60.5%となり、到達目標（2024年度末までに30%以上）を達成するペースで進捗しています。
- 2025年4月の65歳定年延長の実施に向けて、シニア人事制度の詳細設計を進めました。
- 「コア業務純益」「OHR」「自己資本比率」などの経営指標は、『第7期中期経営計画』の計数目標を達成するペースで進捗しています。
- 次世代型の店舗・チャンネル政策（いつでも・どこでもつながる労働金庫構想）の実現に向けて、退職・高齢世代対応職員の試行配置および次世代型店舗の試行運用を開始しました。
- ペーパーレス化による紙使用の削減、高校生・大学生向けの金融教育、NPO等への助成など、社会的要請に対応しました。
- リスク管理態勢、危機管理態勢、マネーローダリング・テロ資金供与対策を適切に整備しました。

【主な課題】

- 女性活躍推進に向けた取り組み強化が必要。

<こくみん共済 coop千葉推進本部>

2024年度は、「中期経営政策 2022-25 ～変革と創造～」の初年度から3年目に移行した年であり、社会環境や経済環境が変化する中において、事業の持続的成長と運動の発展に向けた課題を設定し、組合員の更なる推進やDXによる利便性向上の取り組み等を進めました。

とりわけ、2024年12月に火災共済誕生70周年を迎えたことを契機として、組合員・生活者へ住まいの保障点検の呼びかけ等の活動を展開し、豊かで安心できる暮らしをサポートしてきました。また、アプリやマイページ等の機能拡充により、「新しいたすけあい」の創造・実践を進めてきました。

引き続き、「お役立ち」と「共創」にむけて、デジタル技術を活用し、組合員・生活者の利便性向上および多様なコミュニケーション手段の確立によるサービスの向上に向けて活動を進めていきます。

【職域】

1. 労福協をはじめ、連合、産業別労働組合、労働金庫、地域生協、こくみん共済 coop 指定整備工場などの関係諸団体と連携強化をはかるとともに、未組織労働者を含むすべての労働者福祉の拡充に向け、共済推進活動を展開し共済利用団体の拡大を図りました。
2. 地区運営組織活動の中心的な担い手である地区役員の理解度向上や地区運営組織・構成団体の活動促進および活動の継承を目的に、「常任委員研修会」を開催しました。また、各地区常任委員会を年4回実施し、常任委員との関係強化や意思統一を行いました。
3. 「労済運動体験学習」および「3.11 統一行動」を実施し、生活協同組合や労済運動の歴史、駅頭チラシ配布、オンライン語り部講話等を通して、共済の重要性と更なる共済利用の拡大を参加の各協力団体、組合員・生活者に訴求しました。

【地域】

1. 共済ショップに来店されたお客さまには「お役立ち」を意識した親切丁寧な対応と、保障の不足を補うプラスワン加入をおすすめするなど、お客さまへの寄り添いを大切に推し進め活動を実施しました。

2. 地区共済会役員会を開催して共済会活動の活性化に努めるとともに、共済会活動を担っていただく「地域協力員」の登録活動を進めました。

【教育文化活動】

1. 子どもたちの体力向上を応援するために「こどもの成長応援プロジェクト」として、こくみん共済「こども保障タイプ」のご加入1件につき、1本のなわとび・長なわを児童館や小学校に寄贈する取り組みを展開しました。
2. 未来ある子どもたちを交通事故から守りたいという思いから「7才の交通安全プロジェクト」として、マイカー共済のお見積もり1件につき1本の横断旗を児童館や小学校に寄贈する取り組みを展開しました。
3. 第51回小学生作品コンクールを開催し、県内のべ12校から1,151点の作品応募がありました。厳正な審査の結果、千葉県コンクールにおける入賞作品（金・銀・銅）96点を決定し、表彰式で賞状を授与しました。金賞作品は中央コンクールに出品し、千葉県内から最優秀賞に作文の部では3点、優秀賞に作文の部では2点、版画の部では1点が選出されました。
また、表彰式終了後、火災共済誕生70周年イベントとして、Dr. ナダレンジャーによる「防災科学実験ショー」を開催し、受賞者ならびにそのご家族に楽しく学んでいただきました。

<千葉県生協連>

【2024年度活動の特徴】

2024年度は元旦に起こった「令和6年能登半島地震」で始まり、4月からは震災とその後の豪雨災害の復興にむけ、全国の生協が支援に取り組みました。2025年1月に阪神淡路大震災から30年を迎え、あらためて直下型大地震の被害、その後の火災や津波などの被害に向き合い、今一度、災害支援、防災、減災、地域や諸団体との連携などについて検討しました。また円安による輸入品価格の高騰などによる様々な物資の値上がりが続く中、豪雪や猛暑など異常気象の影響を受け、特に生鮮食品の価格高騰に悩まされ、米の品不足とその後の価格高騰は生協も苦慮する事態となりました。

【2024年度重点課題】

- 1 会員生協とともに安心して暮らし続けられる社会を実現するため SDGs 達成をめざして社会的課題の解決に取り組みました。
 - ・「令和6年度消費生活協同組合役員研修会」において「第4次千葉県消費生活基本計画」について学習しました。
 - ・千葉市と会員生協、淑徳大学の連携企画として千葉市内3会場で「子供を事故から守ろう！パパママトークカフェ」を開催しました。家庭内などで発生する子どもの事故をどのように防ぐか、ワークショップも交えて学びました。
 - ・「第45回九都県市合同防災訓練」（会場：いすみ市）に参加協力しました。また毎月、生協連の5会員生協とMCA無線通信訓練を行いました。
- 2 誰ひとり取り残されない地域社会づくりのため、自治体や諸団体との連携を大切にしながら協同組合としての役割を発揮しました。
 - ・「千葉県環境生活部と千葉県生協連役員との懇談会」を開催しました。会員生協の取り組み状況を紹介し意見交換を行いました。
 - ・「生協広報担当者・消費者行政連絡会」を開催しました。会員生協の活動や広報事例を紹介し、県の消費者被害防止のためのお知らせを各会員生協の広報媒体に掲載しました。
 - ・「千葉県協同組合提携推進協議会」に参画しました。農協、漁協、森林組合と連携し、県民に向けて協同組合の価値をアピールすることを目的に「協同組合フェア」を開催しました。
- 3 消費者市民社会の実現にむけ、地域で活動する消費者団体に協力、支援しました。
 - ・悪質事業者の不当表示などに対し、是正を求める活動をおこなう適格消費者団体「特定非

営利活動法人消費者市民サポートちば」の事務局を担い支援しました。申し入れ活動の他地域での学習、啓発活動も実施しました。

- ・安全、安心で持続可能な消費者市民社会を構築するため「消費者団体千葉県連絡会」の事務局として、幹事団体とともに、くらしの様々な課題について学習や交流、提言を行いました。
- 4 地域の中での生協の取り組みに理解を深めていただけるよう、様々な場面、年代、団体に向けた情報発信に努めました。
- ・千葉大学に開講した日本協同組合連携機構（JCA）が主催する「国際協同組合年記念」千葉大学公開寄付講座の開催に協力しました。協同組合の理念や活動を紹介することを目的にしており、会員の地域生協に講師を依頼し進めました。
 - ・創立 75 周年事業として千葉県が創設した「児童養護施設等退所者に対する奨学基金」に寄付金を贈呈しました。
- 5 日本生協連中央地連管内の都県連との交流や情報交換をすすめました。
- ・東京都、埼玉県、神奈川県各都県連とともに 4 都県生協連主催の学習会「みんな、どうする？～多様な活動から未来を考える～」をハイブリッドで開催しました。様々な背景を持つ人たちとの連携、活動の拡がりなどをどう作るなどについてディスカッションしました。
 - ・日本生協連、中央地連の会議に参加し、他県の生協、生協連との交流を深めました。